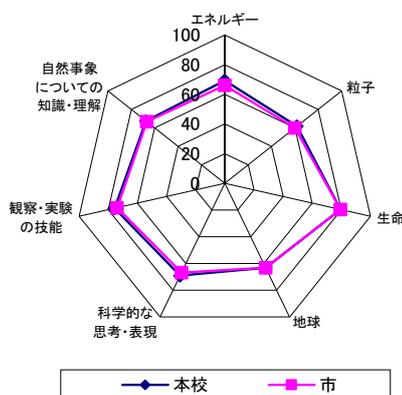


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	69.3	66.1	56.4
	粒子	61.7	60.0	57.4
	生命	79.4	79.4	75.2
	地球	63.1	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	69.0	66.8	57.2
	観察・実験の技能	75.7	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	67.4	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は、市平均より3.2ポイント上回っている。</p> <p>○今回出題された音の性質、電流と磁界、物体のいろいろな運動、すべての分野において市平均よりを上回っていることから、学習内容が定着している生徒が多いと考える。</p> <p>●音の性質の「弦の張りや音の高低」の問題で唯一、市平均より正答率が1.7ポイント低い。実験の結果を考察し確かな知識とする必要があると考える。</p>	<p>・実験を多くとり入れ、結果を処理したり分析したりする機会を設け、グラフやデータを読みとり活用する学習を積極的に行なう。</p>
粒子	<p>平均正答率は、市平均より1.7ポイント上回っている。</p> <p>○物質の状態変化、化学変化については、市平均正答率を上回っている問題が多い。知識を活用する問題も正答率が高く、思考する力も身に付いている生徒が多いと考える。</p> <p>●水溶液とイオンの分野ではどの問題も市平均より正答率が低く、課題が見られる。基礎的な内容が知識として定着していないと考えられる。</p>	<p>・イメージが難しい事象は、モデルやイラスト、実験などを通して、分かりやすく思考しやすくなるよう工夫をしていく。</p> <p>・こまめに小テストを実施するなど、学習内容が定着する取組をとり入れていく。</p>
生命	<p>平均正答率は、市平均と同じである。</p> <p>○知識を問われる問題の正答率は比較的高いことから、どの分野も基礎基本的な学習内容は定着していると考えられる。</p> <p>●実験操作の理由について問う問題や、知識を活用する問題で正答率が低いことから、学習内容のつながりを理解し、考えることに課題が見られる。</p>	<p>・知識を理解するだけではなく、生命のしくみや特徴が生物の生きる環境や条件と関連して成り立っていることを考えさせながら、学習内容のつながりが分かる授業を展開していく。特に、生命の分野でも目に見えない事象は観察や実験で確かめることを通して、より理解を深められるよう指導する。</p>
地球	<p>平均正答率は、市平均と同じである。</p> <p>○土砂の堆積や、図や表から天気について読みとる問題の正答率は市平均を上回っていることから、単なる資料の読み取りはできていると考える。</p> <p>●地層の様子を推測する問題、また気象の分野で台風の進み方について思考する問題の正答率が市平均より低かった。このことから、知識を活用して資料を読みとる深い思考力に課題があると考える。</p>	<p>・イメージが難しい事象は、モデルやイラスト、観察などを通して、分かりやすく思考しやすくなるよう工夫をしていく。</p> <p>・課題解決型の課題をとり入れ、グループ学習などで自分たちの力で資料を活用し論理的に考える力を育んだり、発表の時間を設けて考えを表現したりする活動を行う。</p>